

常照

第867号

『色は匂へど…』

「いろはにほへと…」皆さん、いろは歌を覚えていらっしゃいますか？この歌は日本語の五十音（四十八文字）を一回ずつ使って作られ、古くから文字を覚える教材として用いられてきました。全文は「いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそつねならむ うゐのおくやまけふこえて あさきゆめみし ゑいもせず」となり、漢字かな交じりで書き換えると「色は匂へど 散りぬるを 我が世誰ぞ 常ならむ

有為の奥山 今日越えて 浅き夢見じ
酔ひもせず」となります。ところでこの歌にどのような意味があるのかご存知でしょうか。実はこの歌はお釈迦様の前世の話である『ジャータカ物語』の一つ『雪山童子』が元になっています。

『雪山童子』

昔、ヒマラヤ山に真実を求める修行者がおりました。お釈迦様の前世の姿であるこの修行者は財産や栄華には関心がなく、ひたすらに迷いを離れる教えを求めておりました。神は修行者のその心が本当か試そうと鬼の姿となってヒマラヤ山に現れ、「ものみなうつり変わり、現れては滅びる。」と歌いました。修行者はこの言葉を聞き、これこそ真実の理（ことわり）で、真実の教えであると思い、心から喜びました。彼はあたりを見回し、誰がこの尊

い言葉を歌ったのであろうかと思まわすど、そこに恐ろしい鬼がいるのを見つけてました。修行者は恐る恐る鬼に近づいて「先ほどの言葉はあなたが歌ったものですか、もしそうなら続きを聞かせてもらいたい。」と頼みました。すると鬼は「そうだ、それは私の言葉だ。しかし私は今腹が減っているから何か食べなくては続きを歌うことはできない。」と答えました。修行者は「どうかそう言わずに続きを聞かせてください。あの言葉には大変尊い意味があり、私が求めているものがある。しかし、あれだけでは言葉が足りない。どうか続きを教えてください」と言うと鬼は「私は空腹に耐えられない。もし人の温かい肉を食べ、血をすすることができれば、なら続きを教えてください」と言いました。これを聞いた修行者は続きを聞か

せてくれるなら聞き終わったらこの身を差し出すと約束しました。鬼はそこで続きの言葉を教えました。「ものみな移り変わり、現れては滅びる。生滅にとらわれることなくなりて、静けさと安らぎは生まれる。」修行者はこの言葉に感動し、木や岩に刻んだ後に鬼の口に自分の身を投げ与えました。その瞬間鬼は神の姿に変わり、修行者の身を受け止めて寝たたたえたのでした。

『この世に変わらないものはない』

雪山童子のお話はお釈迦様が悟りを開かれる前に何度も生まれ変わり修行を積まれたお話の一つですが、このお話には、この世のあらゆるものは移り変わり、変わらないものはないという真理と財産も地位も名誉もこの命すら変わっていくのだから、それを変わらないもののように思い、それに固執す

ることこそが無意味で限りある人生を無駄にしているという教えが示されています。いろは歌は「麗しく匂う花々も、やがては散っていく。この世において常に変わらないものがどこにあるか。形あるものにとらわれて迷っていた山道を、今日から越えていこう。もはや浅はかな夢を見るまい、酒に酔ったような生活もするまい。」という仏教の真理を伝えていきます。

この世のあらゆるものは様々な原因と条件によって成り立っていてとどまることなく変化してゆくものです。しかし私たちはその真実を認めようとせず、自分だけは変わらなずいたいと願ってしまいます。若く健康で長く生きることが幸福で、老いて病になり死ぬことは災いと思ひ込んでいるのです。そのような見方では人生は次第に不幸に

なるしかありません。そして不幸の頂点で人生を終えるのです。生まれたものは必ず死ぬという教えはとても悲観的なように思うかもしれませんが、それが悲観でも楽観でもなくこの世に真実なのです。その真実があるがままに受け入れた時、恵まれた生に対して驕（おご）ることなく謙虚に感謝し、迫りくる死に対し恐れることなく今ある人生を精一杯生きるといふ境地が生まれてくるのです。

その境地に至ることは容易ではありませんが、雪山童子は命がけてその道を求め、私たちに伝えようとしてきました。それが今日伝えられている仏教の教えなのです。かつての日本人はこの雪山童子が伝えた仏教の教えをいろは歌として私たちに教えてくれているのです。

南無阿弥陀仏

合掌

正信念仏偈

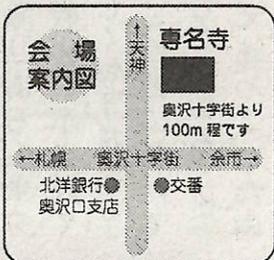
令和8年3月30日(月)
仏教人生講座
 午後2時～3時半まで



真宗大谷派僧侶。
 関西を中心にラジオ番組のパーソナリティーなどをつとめた後、「心の問題」に取り組み。毎日寄せられる50通以上のメール、手紙の相談に向き合っている。NHK「10人のお坊さん」「こころの時代」、UHB「テレビ寺子屋」等に出演。

- ◎ 講題： 私たちは何を求めて生きているのか？
- ◎ 講師： 川村妙慶さん（僧侶・アナウンサー）
- ◎ 会場： 専名寺本堂（小樽市奥沢一丁目十五ー十二）

御講師がやさしい言葉で
 わかりやすくお話しくださいます。
 どなたでも聴講できます！



発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院
 電話 (011-334) 2211074
 FAX (011-334) 2211074
 テレホン法話 (011-334) 2211074

主 催／真宗教団連合・常照会お問合せ
 事務局／代表：岩崎貴長 090-9086-4783